

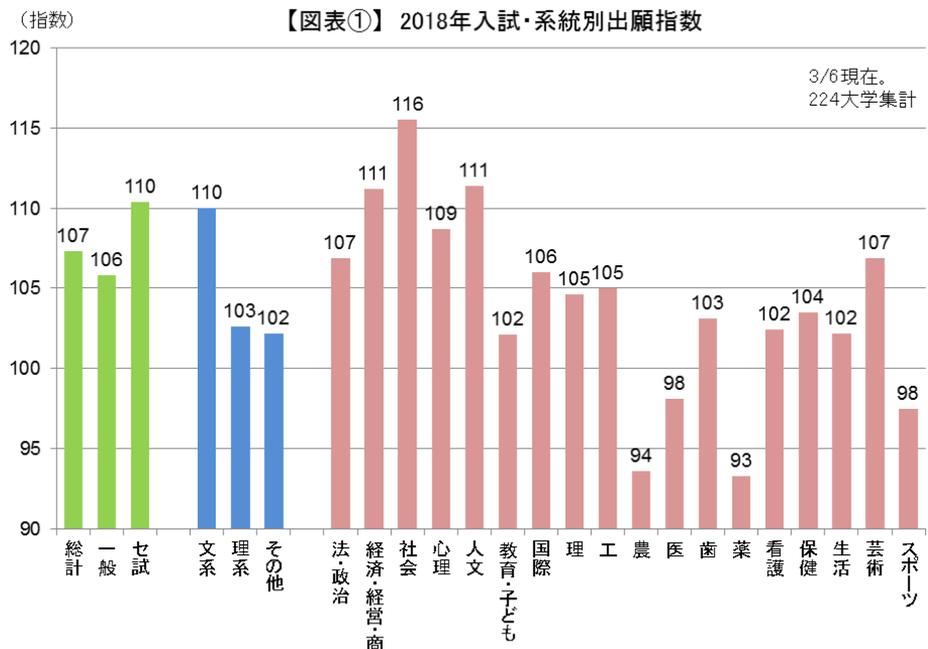
## 2018年首都圏私立大学出願動向

## 1. 全体動向

2018年度入試の私立大学の全体の出願動向は出願指数 107（2月末日現在。224大学集計）で、昨年の指数 108 に引き続き、大幅な志願者増となっています。これは、インターネット出願の浸透や採用校数の増加、既卒受験生の増加など様々な要因が考えられます。特に首都圏の大規模私立大学の入学定員厳格化の影響による合格者減を懸念した受験生が文系学部を受験生を中心に一人あたりの出願校数を増やしたことが大きな要因と考えられます。

一般入試とセンター利用入試を分けてみると、昨年は一般入試での増加分が増加全体の7割を超えていたのに対して、今春は6割程度にとどまっており、センター利用入試の増加分が4割超と昨年よりも高くなっています。さらにその多くはセンター試験実施前出願の入試となっており、このことから受験生がセンター利用入試で早めに合格校を確保しようとする動きがあったことがうかがえます。

文・理系の出願動向は、文系の指数が110、理系の出願指数が103となっていて、ここ近年に引き続き「文高理低」の状況には変化がありません。さらに詳細な系統でみると、最も志願者数が増えた系統は、一昨年が法・政治学系、昨年が経済・経営・商学系と近年は社会科学系の増加が目立ちましたが、今春は社会学系、人文学系の増加が目立っています。一方で、減少が目立つ系統としては農学系、薬学系の減少が目立ちます。農学系は昨年大幅に増加した反動と考えられますが、薬学系はこれで4年連続の志願者減少となります。【図表①】参照



## 2. 首都圏大学の動向

大学別の出願動向ですが、全国の出願者数増加のベスト5は東洋大、中央大、関西大、近畿大、東京都市大の順となっています。中央大は昨年 GMARCH の中で唯一志願者が減少した大学で、その反動から

大幅に志願者が増加したものと考えられ、また関東圏の上位・中堅大学で増加率トップの成城大は昨年の志願者数減少全国1位からの反動増と考えられます。そのため今春の出願者数の減少幅が大きい東京農業大や成蹊大などは次年度入試において、志願者の反動増がないかを注意する必要があります。

レベル別では、最難関校の中で早稲田大・上智

大が志願者を増やしたのに対して慶應義塾大が減少しています。慶應義塾大は私大全体が大幅に志願者を増やした昨年でも志願者数は横ばいで、人气的には離散状況が続いています。

GMARCHの中では特に、中央大、立教大、明治大の志願者大幅増が目立っています。立教大については、センター利用入試で全学的に志願者を増やしていることが目立ちます。中央大、明治大は一般入試、センター利用入試とも万遍なく志願者を増やしています。

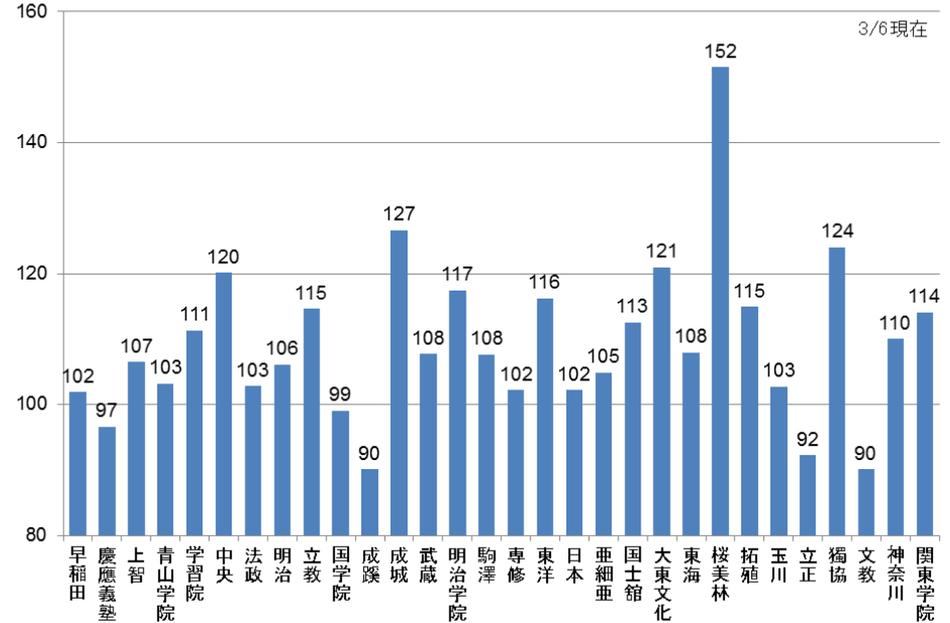
中堅大学では、先に挙げた成城大以外には英語外部試験利用の入試を拡充させている明治学院大、入試方式のスクラップ&ビルトを推進する東洋大などが志願者を大幅に増やしました。**【図表②】参照**

理系の単科大学では、東京都市大が一般・センター利用入試ともに大幅な志願者増となっています。その他でも、東京理科大、芝浦工業大がセンター利用入試、英語外部試験利用入試で志願者を増やしています。

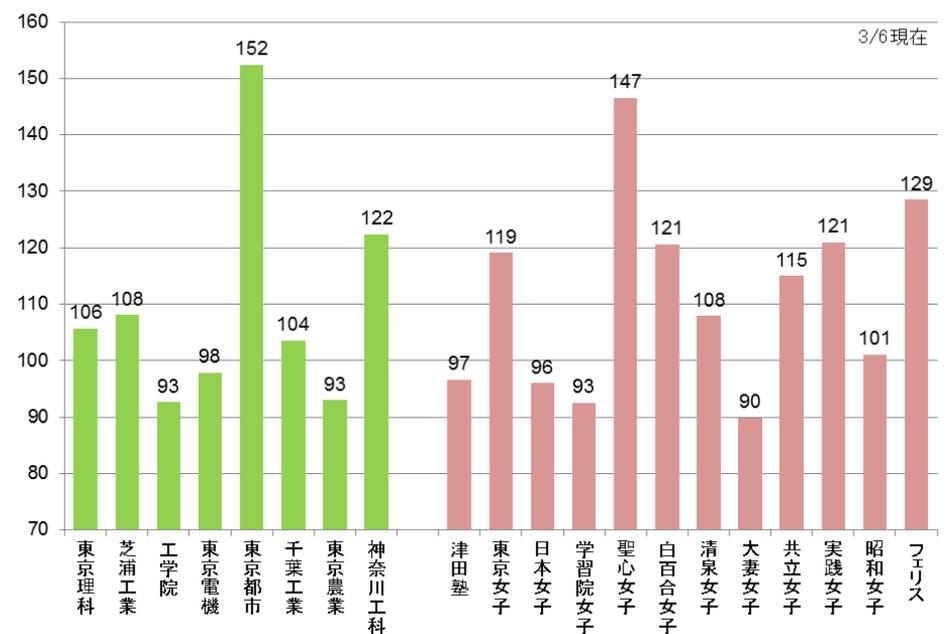
女子大では、上位の中で津田塾大、日本女子大が減少しているのに対して、東京女子大が増加しています。これは東京女子大が英語外部試験を利用する入試を新たに導入したことが要因です。その他の女子大は増減まちまち

となっています。**【図表③】参照**

【図表②】 2018年 首都圏主要大学 出願指数



【図表③】 2018年 首都圏理系単科・女子大志願指数



### 3. 英語外部試験利用入試の出願動向

関東の主要大学では、英語外部試験を利用する入試を導入する大学が増加しています。右記の表にあるものは主要大学の中で募集人員を分けて複線入試として実施しているものの一覧になります。どこの大学も軒並み大幅に志願者を増やしています。昨年までは文系に関しては英検2級程度が必要な大学・学部では志願者が集まる状況にありましたが、今春は英検準1級程度が必要な大学・学部でも志願者を大幅に増やしています。昨年まで従来の入試よりも実質倍率が低かったため、受験生が英語外部試験利用入試を受験しようとする積極的に検定試験を受験したためと思われます。特に昨年の早稲田大の文・文化構想学部の実質倍率1倍台はその流れに拍車をかけさせたと思われます。【図表④】参照

【図表④】 2018年 主要大学英語外部試験利用入試志願者数一覧

大学	学部	方式	2017年		2018年		志願指数
			募集	志願者	募集	志願者	
青山学院	文(英米文)	個別C	10	46	10	98	213.0
	経済	個別B	15	64	15	168	262.5
	経営	個別C	5	34	5	68	200.0
	国際政治経済	個別B	21	165	21	301	182.4
	総合文化政策	個別B	55	720	55	678	94.2
	地球社会共生	個別B	30	252	30	255	101.2
学習院	国際社会科学	プラス	20	578	20	235	40.7
芝浦工業	全学	英語資格検定試験	89	963	95	1,473	153.0
上智	全学	TEAP	412	4,460	412	6,543	146.7
中央	経済	英語外部検定試験	20	199	20	436	219.1
	文	英語外部検定試験	若干	188	若干	542	288.3
	総合政策	英語外部検定試験	10	228	10	414	181.6
	東京理科	全学	グローバル	20	181	150	1,445
法政	法	英語外部試験	新規	新規	8	179	—
	経済(国際経済)	英語外部試験	5	63	5	95	150.8
	人間環境	英語外部試験	5	559	5	877	156.9
	現代福祉	英語外部試験	5	16	4	115	718.8
	グローバル教養	英語外部試験	5	100	10	250	250.0
	スポーツ健康	英語外部試験	5	54	5	313	579.6
	情報科学	英語外部試験	4	64	4	139	217.2
	理工	英語外部試験	新規	新規	10	273	—
	生命科学	英語外部試験	9	113	9	140	123.9
	武蔵	全学	全学部グローバル	17	164	19	229
明治	商	英語4技能試験	新規	新規	15	416	—
	経営	英語4技能試験	40	174	40	296	170.1
明治学院	文(フランス文)	全学部英語資格	新規	新規	5	134	—
	経済	全学部英語資格	12	448	20	576	128.6
	社会	全学部英語資格	新規	新規	10	293	—
		A日程英語資格	新規	新規	10	302	—
	法	全学部英語資格	新規	新規	15	226	—
		A日程英語資格	新規	新規	30	274	—
	国際(国際)	全学部英語資格	5	210	5	260	123.8
立教	全学	全学部グローバル	149	1,397	181	2,675	191.5
早稲田	文化構想	英語4技能テスト	70	543	70	1,319	242.9
	文	英語4技能テスト	50	368	50	931	253.0

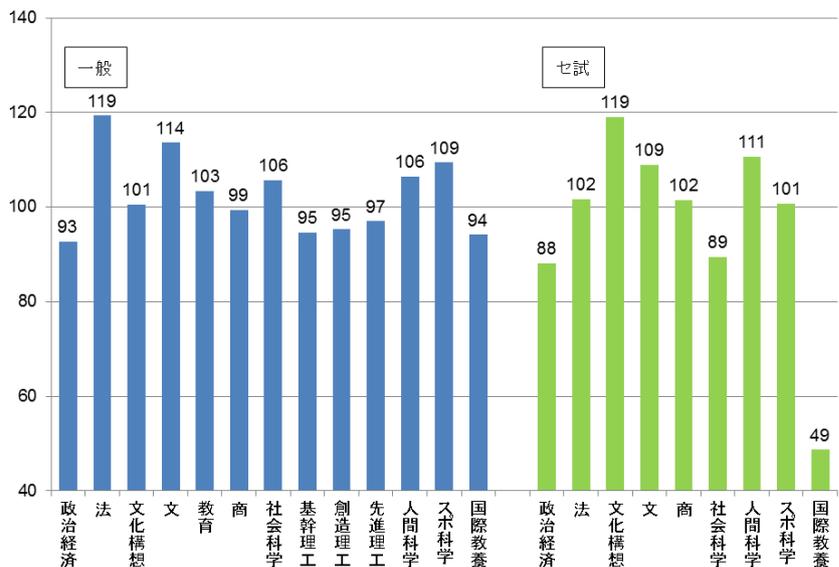
上記のように英語外部試験を受験資格として利用する方式の他にも、英語外部試験を満点や指定の点数に換算する方式をとる大学もあります。例えば、早稲田大・国際教養、明治大・国際日本の一般選抜、東洋大の一般前期などが挙げられます。これらの入試でどれほどの人数が英語外部試験を利用して試験当日の英語を免除されたかは不明ですが、かなり多くの受験生が英語外部資格を利用することで入試を有利にすすめたという情報もありますので、各大学の英語外部試験の利用方法にも注意する必要があります。

### 4. 主要大学別の出願動向

#### ◆早稲田大学

早稲田大の出願指数は102で、3年連続の志願者増加となりました。方式別に出願指数をみると、一般入試が103、センター利用入試が98となっています。一般入試では、法学部が10年ぶりに志願者増加となりました。これは連続減の反動と数学が選択可能になったことが要

【図表⑤】 2018年 早稲田大 学部別出願指数



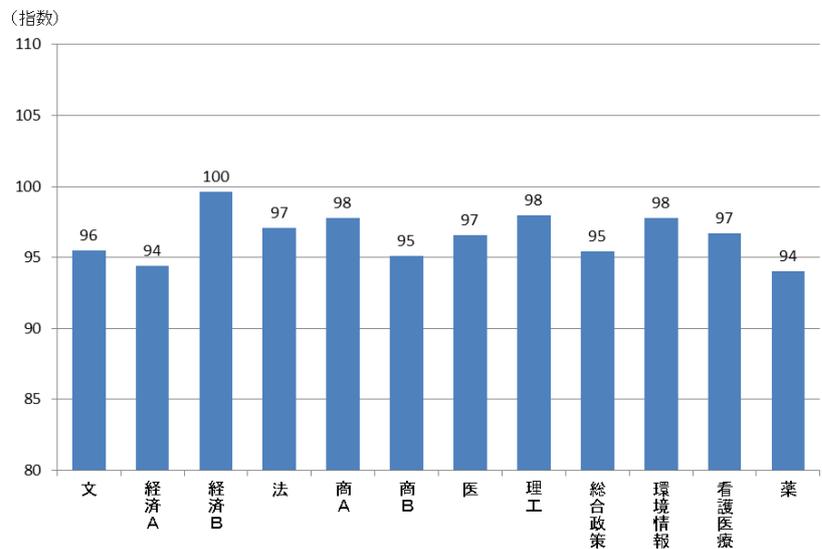
因と考えられます。文・文化構想学部は英語4技能テスト利用型の志願者が2倍以上の大幅な増加となり、学部全体の志願者も増やしました。特に文学部は従来の入試も大幅に増やし、一般入試全体の志願者も大幅な増加となりました。また、早稲田大の中ではレベル的に易しい社会科学、人間科学、スポーツ科学の3学部の志願者の増加も目立ちます。一方で、最難関の政治経済学部、今年から英語4技能を点数化し加点することにした国際教養学部、そして理工系3学部が志願者を減らしています。センター利用入試では、文、文化構想、スポーツ科学部のセ試+一般方式が大きく志願者を増やしています。一方で、昨年入試で大幅に合格者を減らした国際教養学部が志願者を半減させていますし、昨年大幅に志願者を増やした社会科学部も反動で志願者を減らしています。【図表⑤】参照

【図表⑤】参照

◆慶應義塾大学

慶應義塾大の出願指数は97で、4年ぶりの志願者減少となりました。全国的には人気の社会科学系や人文系を含め、全学部で志願者が減少しています。上位国立大学との併願が多い経済・商のA方式も2年連続で減少しています。また、理系学部では2年以上の連続減も目立ち、医、理工、薬の3学部については4年連続の減少となりました。そんな中で、理工学部の学門5は2年連続の志願者増加となっています。【図表⑥】参照

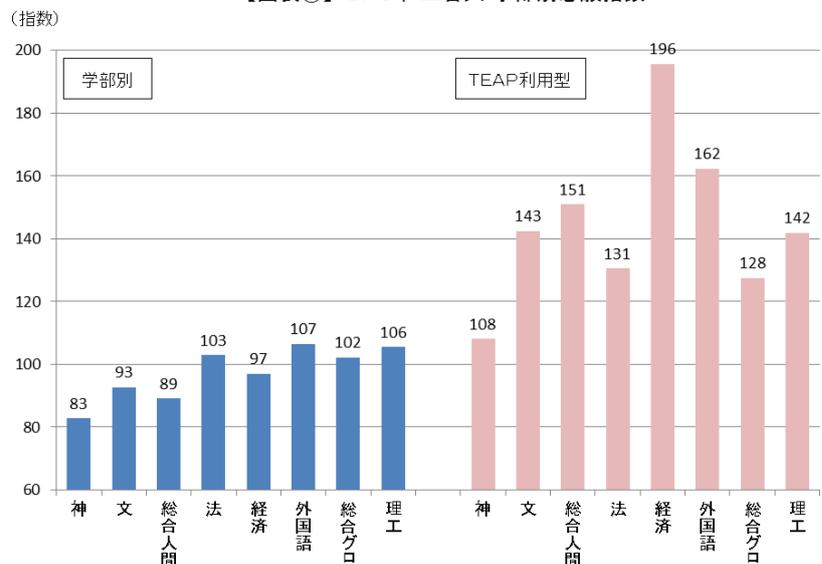
【図表⑥】2018年 慶應義塾大 学部別出願指数



◆上智大学

上智大の出願指数は107で、2年連続の志願者増加となりました。方式別に出願指数をみると、学部別入試が99、TEAP 利用型入試が147となっています。学部別入試は、文学部の哲学、フランス文、新聞学科や外国語学部のドイツ語、イスパニア語学科など多くが昨年の増減の反動の動きとなっています。その中で、外国語学部の英語学科は2次試験

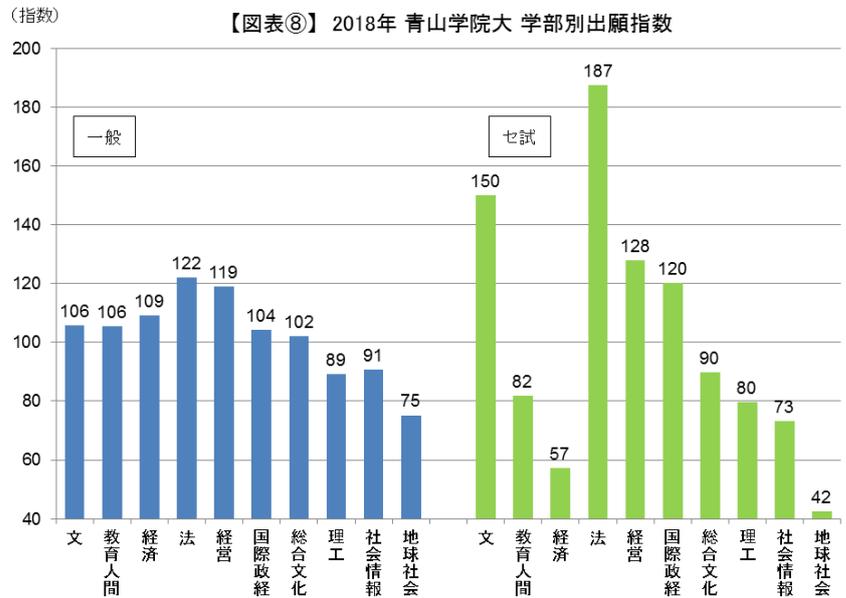
【図表⑦】2018年 上智大 学部別志願指数



がなくなって2度目の入試になりますが、志願者の増加が続いています。TEAP 利用型入試は、ほぼすべての学科で志願者増加となりました。これは出願資格として使える英語外部試験に TEAP-CBT が追加されて、資格試験を受験する機会が増えたことが大きいと思われます。また、CBT では4技能それぞれのスコアの条件がなく、総合点のみの利用であるために基準スコアを超えやすかったことなども TEAP 利用型での志願者増加の要因と考えられます。【図表⑦】 参照

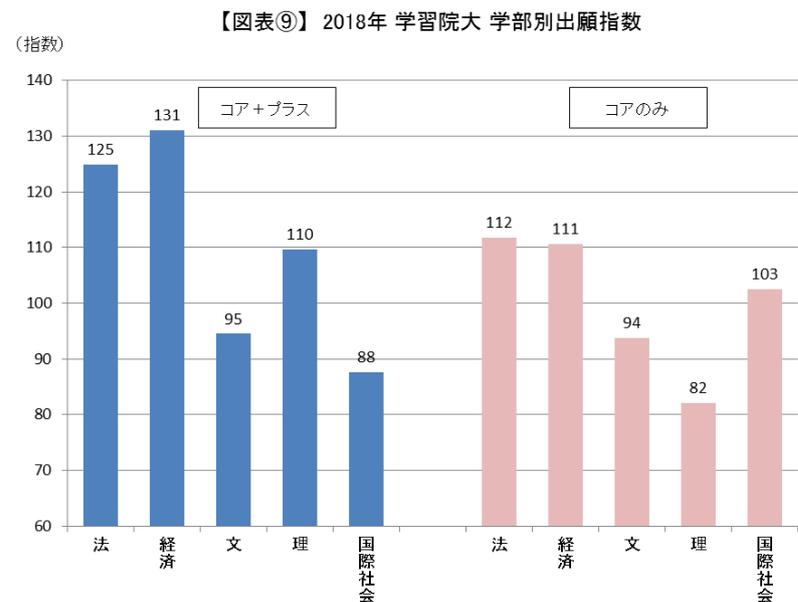
◆青山学院大学

青山学院大の出願指数は 103 で、4年連続の志願者増加となりました。方式別に出願指数をみると、一般入試が 104、センター利用入試が 99 となっています。法学部は昨年減の反動で一般入試、センター利用入試とも志願者を大幅に増やしています。逆に、社会情報、地球社会共生学部は昨年、一般入試、センター利用入試ともに合格者を大幅に減らし実質倍率が大きく上昇したため、志願者が減少しています。センター利用入試では文学部が大幅に増加、経済学部が大幅に減少していますが、これは前年度からの反動と思われます。【図表⑧】 参照



◆学習院大学

学習院大の出願指数は 111 で、3年連続の志願者増加となりました。今春からプラス入試を導入し、多くの学科の受験機会が2回に増えたため、志願者は大幅な増加となっています。特にコア入試のみの数でも増加している法、経済学部は大幅な志願者増加となっています。そんな中で、プラス入試を心理、教育の2学科のみ理系型で導入した文学部はコア入試が2年連続大幅増の反動で減少したため、一般入試全体でも志願者減少となっています。また、国際社会科学部は志願者を減らしていますが、これは昨年がコア・プラス入試をA・B方式という名称で実施をされていて、A・B方式を併願した際の2方式目の検定料がかからない制度でしたが、今春からは併願すると検定

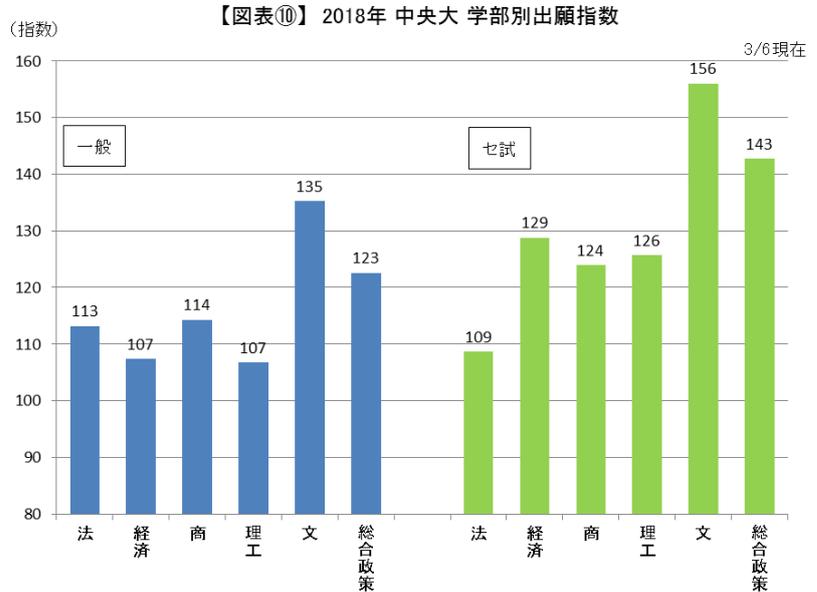


料がそれぞれにかかる制度に変わったために志願者を減らしています。【図表⑨】参照

◆中央大学

中央大の出願指数は 120 で、志願者増加数は全国 1 位で大幅な志願者増加となりました。一般とセンター利用という区分で出願指数をみると、一般入試が 115、センター利用入試が 127 となっています。さらに細かい方式別でもすべての方式で志願者が 10%以上の大幅な増加となっています。これは GMARCH の中ではキャンパスが地域的に不利な場所にあり、そのため近年 GMARCH の

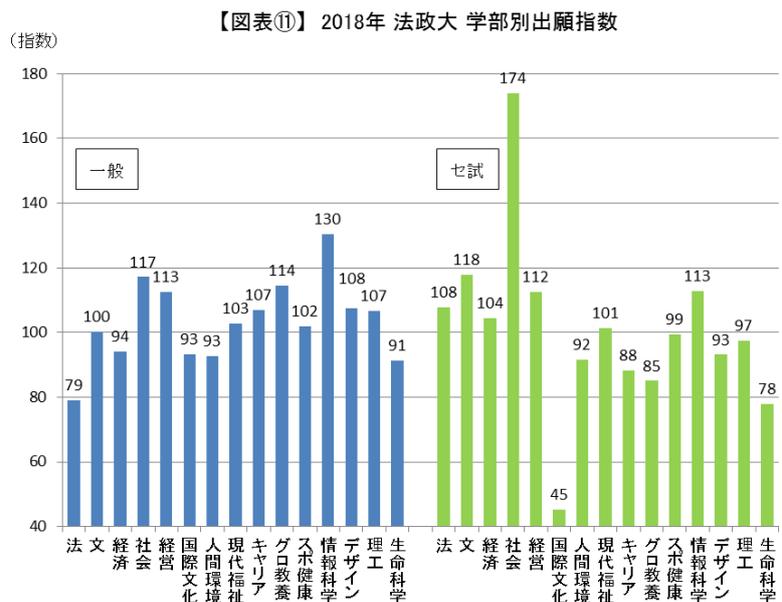
中では比較的易しくなっている状況から、特に志願者が流入したと考えられます。全学部が増加している中で特に、女子割合の高い文、総合政策学部の志願者の増加が大きいことから安全志向からの選択と考えられます。【図表⑩】参照



◆法政大学

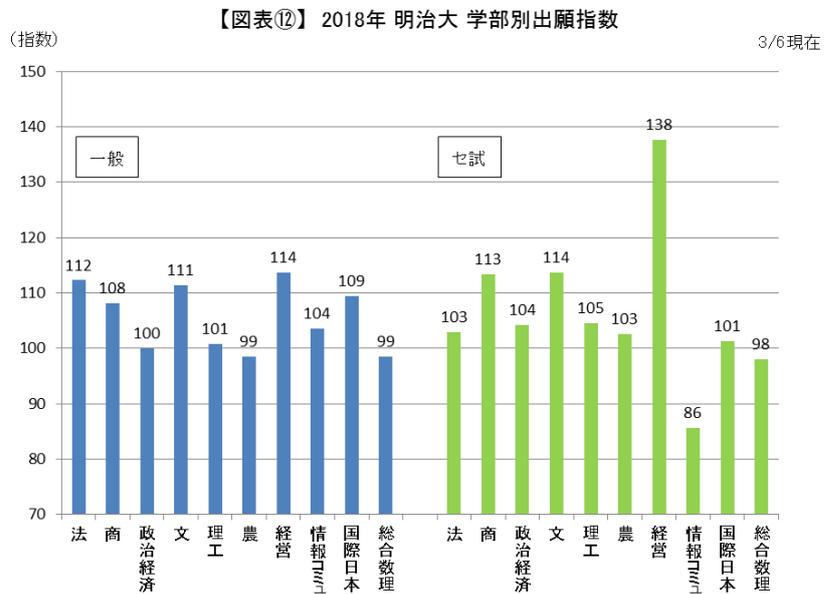
法政大の出願指数は 103 で、3 年連続の志願者増加となりました。方式別に出願指数をみると、一般入試が 101、センター利用入試が 106 となっています。一般入試に関しては、昨年が 1 万人以上の大幅な志願者増であったこと、さらに合格者を 2 千人弱も減らしたこともあり、昨年に比べると比較的小幅な増加にとどまっています。その中で英語外部試験利用入試は関しては新たに導入した学部もあり、出願指数が 246

と大幅な増加になりました。センター利用入試は、私大 3 教科型の B 方式は増加、国公立 5 教科型の C 方式は減少と明暗が分かれています。学部・学科別にみると、特に社会学部の社会政策科学科は全方式での大幅な志願者増加が目立っています。また、法政大は例年、学部・学科ごとの志願者の増減が激しいことが傾向ですので、志願者の増減の動きには注意が必要です。【図表⑪】参照



◆明治大学

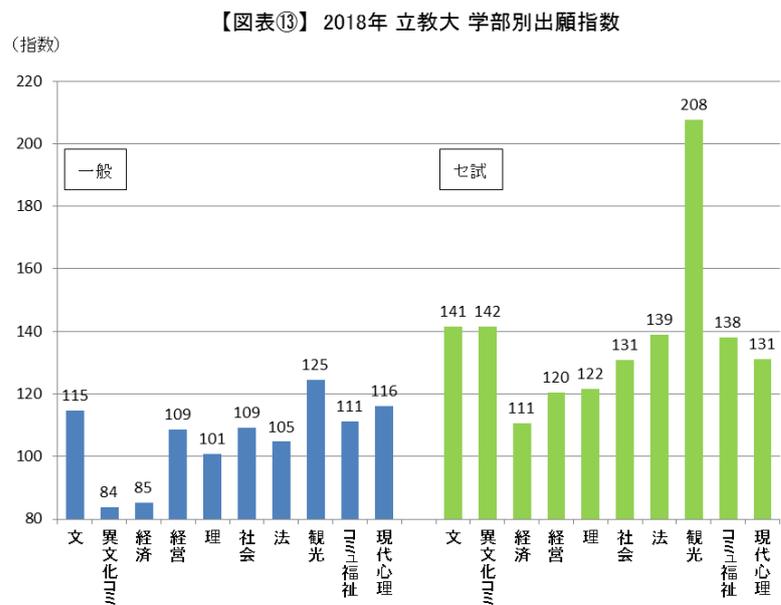
明治大の出願指数は106で、4年連続の志願者増加となりました。方式別に出願指数をみると、一般入試が106、センター利用入試が107となっています。全体的に増加している中でも、一般入試、センター利用入試ともに経営学部の志願者の増加が目立っています。一般入試では、昨年志願者減の法学部、専攻の新設があった文学部、一般選抜で指定英語資格取得者の英語得点を満点に換算する国際日本学部が志願者を大幅に増やしています。センター利用入試では、商学部の3・4科目型、文学部の3科目型が志願者を増やしています。逆に、昨年志願者を大幅に増やした情報コミュニケーション学部は志願者を減らしています。



【図表⑫】参照

◆立教大学

立教大の出願指数は115で、2年連続の志願者増加となりました。方式別に出願指数をみると、一般入試が105、センター利用入試が133となっています。一般入試の出願指数を方式別にみると、全学部日程3教科方式が105、全学部日程グローバル方式が192、個別学部日程が102となっていて、英語外部資格を利用するグローバル方式の志願者増加が目立ちます。センター利用入試では、全学部において志願者が10%以上の大幅な増加となっています。これは、今春からセンター利用入試において英語外部資格を指定の点数に換算する方式が導入されたことが要因と思われます。また、一般入試、センター利用入試ともに観光学部の志願者増加が目立っています。



【図表⑬】参照